

# 松伏町立松伏第二小学校

## 特別支援教育

主題名 「こんなときどうする？  
～友達と意見が合わなかったとき～」



役割演技をした後、自分や友達ができたこと、よかったところをみんなで確認している場面。



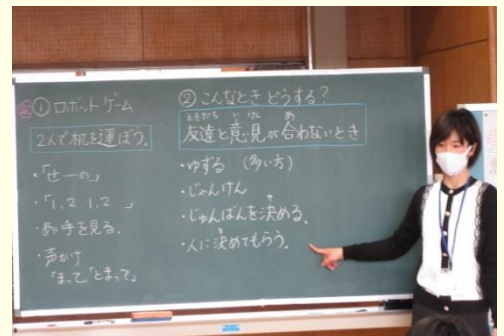
児童のゴールの姿をイメージし、実態に合わせて、計画的に自立活動を実践。

## 参会者アンケート等から

## 研究会のあり方・全体的な感想

### 【授業について】

- 年間を通しての自立活動の取組や目標の設定の仕方など、とても勉強になりました。児童に考えさせるための声かけの言葉選びも勉強になりました。
- 子供の意見を聞いてあげること、待っていることが大切だということを改めて感じました。
- 児童一人一人の実態把握だけでなく、課題もしっかりと立てられていて、本当に子供たちを大切に考えて授業づくりをしているのだなと感じました。
- 中学校に勤めているので、小学校の特別支援学級の授業が新鮮で、大変参考になるポイントがありました。



- 8時間扱いで授業実践をしてみたいと考えることができました。実際に子供たちの変化が見られたというお話と子供たちの姿が印象的でした。
- ロールプレイで何をするのか、誰とするのかを考える場面でも、課題に向き合って話し合うことができていたのでとても参考になりました。

### 【協議について】

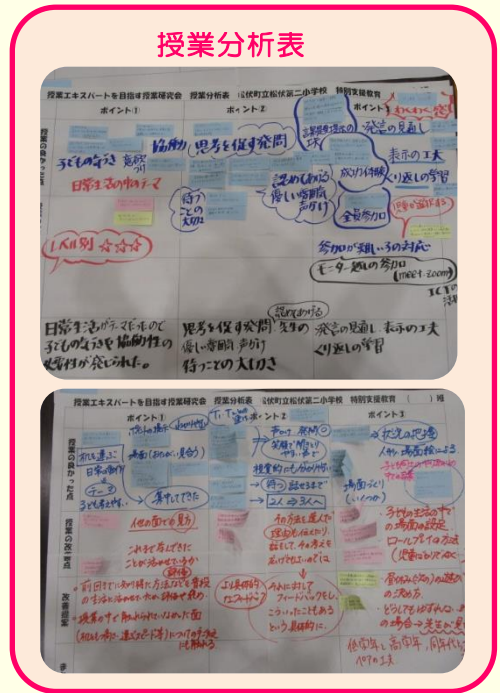
- 経験してきた内容もおりませながら話し合いをすることができたので大変勉強になりました。
- 特別支援学級の担任ではないのですが、自立活動の難しさと同時に重要性をととても感じました。
- 他校の実践例やアドバイス等もただでよかったです。何より、子供達への愛情を感じられる先生方と協議ができてよかったです。
- 協議の中で、中学校の先生のお話も聞くことができ、数年後の子供たちの姿をイメージすることの大切さも学びました。
- 自分では気がつかなかった授業の改善点、提案がたくさん出て参考になりました。自校の教育活動で生かせる意見や実践例がたくさんありました。
- 多くの視点から意見交換をすることで多様な学びをすることができました。
- 特別支援学級の研究授業について協議をする機会が少ないので、とても参考になりました。



「授業者の思い」と「観てほしいポイント」を確認



『私の授業の観てほしいポイント』に沿った研究協議  
様々な立場の先生方と意見交流できる貴重な機会となりました。



### 【指導・講評】 埼玉県立総合教育センター 指導主事 金子 美里 氏

- 自立活動は、100人いれば100通りある。基本は一人一人であるが、今回は「集団でやる」という目的をもち、実践したものである。
- いろいろな学年がいる中で行う難しさはあるが、その中で成長が見えるという魅力もある。
- 実態把握は重要である。つつい課題に目がいくが、強みもしっかりと見てあげてほしい。今回の指導案では子供たちの課題とよさが同じくらい書かれていた。
- 数年後のゴールに向けてどんな姿になってほしいのかイメージを持つことが大切である。そして、そのゴールの姿に向けて、何が課題で、どこに絞って力をつけてあげるのかを焦点化し、授業を設定していくとよい。

